

## はじめに

---

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団（YMFS）は平成 18 年 11 月に設立され、平成 19 年度から事業を開始した財団で、アスリート、スポーツ医・科学の研究者など、スポーツの分野で世界に羽ばたこうとチャレンジしている人材に対する助成事業を中心に、スポーツの振興に寄与する事業を展開している。さらに本年度から新たに財団独自のプロジェクト研究を行うこととなり、その一つとして障害者スポーツ、特にパラリンピック等の世界大会を目指している障害者アスリートの育成・強化の環境についての現状調査を実施することとなった。

その一環として、大学、特に体育学、スポーツ科学、健康科学等の専門学部、学科・コースを持ち、これまで健常者のアスリートの育成・強化や、そのための指導者育成、及び研究と研究者養成に実績をあげられてきた大学を対象として、障害者アスリートに関してはそうした教育、研究の環境がどのような状況にあるのかを調査・分析しようという目的で、153 大学の 167 学部・学科・コースを対象にアンケート調査を実施し、そのうち 51 学部の回答を分析してまとめたのが本報告書である。

こうしたテーマを取り上げたのは、平成 23 年に国が制定した「スポーツ基本法」、及び「スポーツ基本計画」の中で、障害者スポーツに関する記述が格段に増え、健常者スポーツと同等の扱いになったこと、特に「計画」の中で、大学におけるこれまでの健常者アスリートや指導者の育成・強化、及びこれに関わる科学的研究・サポート活動の実績を、障害者アスリートにも対象を広げることが期待されると記述されたことによる。

こうした背景の中で本調査が企画・実施されたのであるが、残念ながら回収率も 51 学部・学科・コース（30.5%）と低く、回答された大学でも、障害者スポーツに対する関心・対応は健常者スポーツに比べて極めて低いと言わざるを得ない結果であった。

回答いただいた大学には深く感謝申し上げるとともに、この報告が今後の障害者アスリートに対する各大学の関心、取り組みが、少しでも国の期待に近づいていくきっかけになればと思っている。

浅見 俊雄